

平成28年度学力定着状況確認問題結果について【概要版】

山口県教育庁義務教育課

平成28年12月

1 実施概要

(1) 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

(2) 実施期日

平成28年10月26日(水) ※学校の状況に応じて、10/24~10/28の期間に実施

(3) 実施対象及び実施内容

①小学校

学 年	実施人数	内 容 (時 間)
第3学年	11,038人	国語、算数(各40分) 及び質問紙
第4学年	10,992人	国語、算数(各40分) 及び質問紙
第5学年	10,819人	国語、算数、社会、理科(各40分) 及び質問紙
第6学年	11,287人	国語、算数(各40分) 及び質問紙

②中学校

学 年	実施人数	内 容 (時 間)
第1学年	10,851人	国語、数学(各45分) 及び質問紙
第2学年	10,984人	国語、数学、社会、理科、英語(各45分) 及び質問紙

2 教科の問題に関する結果

(1) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数	社 会	理 科
第3学年	71.0%	66.9%		
第4学年	65.1%	66.5%		
第5学年	64.1%	53.2%	55.5%	56.9%
第6学年	67.0%	64.4%		

②中学校

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
第1学年	65.4%	56.9%			
第2学年	60.3%	52.3%	42.7%	43.4%	42.9%

(2) 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、おおむね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や記述式の問題には、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ローマ字を正しく書くこと【問題例①】 ○国語辞典の正しい使い方を理解すること ○文字の配列や大きさに注意して毛筆で書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●文中の主語と述語を捉えること ●文章や図表から必要な情報を読み取ること ●目的や意図に応じて自分の考えを書くこと
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○四則計算をすること ○数量関係や図形の基本的な内容について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ●図形の構成や単位の換算、除法のきまりについて理解すること【問題例③】 ●割合の内容について理解すること ●問題場面を読み取って式に表すこと ●問題場面から情報を整理し、理由や方法等を説明すること
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ○商業施設の特色等、身近な学習事例について理解すること ○日本の西側にある大陸の名前について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の資料を関連付けて必要な情報を読み取ること ●条件に合う都道府県を指示通りに示すこと
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ○電気を通すものと通さないものについて理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ●植物がよく育つための条件について理解すること ●種子の部分の名称と、養分の有無を確かめる方法について記述すること ●正しい実験を行うために、必要な条件制御について記述すること
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●読み取った情報を条件に合うように的確に表現すること【問題例④】 ●話し合いの内容を受け、選んだ理由を適切に説明する等、条件等に即応して書くこと
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ○度数分布表から正しく情報を読み取ること ○正の数・負の数の意味を、実生活の場面に結びつけて理解すること ○連立方程式の立式の際に、着目する必要がある数量を見いだすこと【問題例②】 	<ul style="list-style-type: none"> ●数量関係を文字式に表すこと ●基本的な図形の作図や計算などをすること ●知識や技能を日常生活に当てはめて問題を解決すること ●日常的な事象を数学的に解釈して説明すること
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ○世界各地の人々のくらしの様子に関する情報を正しく読み取ること ○それぞれの時代における外国との交流に関することについて理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料から必要な情報を読み取ったり、読み取った情報をもとに地域の特色等について説明したりすること ●示された条件に従って、歴史的な事象の特徴について説明すること
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ○実験のグラフから比例関係にあることを見出すこと ○地震による災害について理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ●計算を伴う課題を解決すること ●実験データに基づいて類推すること ●浮力による見かけの重さを読み取ること ●溶解度の違いによって起こる現象をとらえること
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ○短い英文を聞き、内容について把握すること ○英文の前後から判断して、文中で使う適切な単語を選ぶこと 	<ul style="list-style-type: none"> ●まとまった英文の内容を正確に読み取ること ●前後の英文から意味のつながりを考えて、適切に英語でやりとりすること

(3) 特徴的な問題例

○成果や改善傾向の見られた問題

小学校6年国語【問題例① 1 (3)】

ローマ字を正しく書くこと **正答率 73.6%**

次の言葉を、例のように、ローマ字でていねいに書きましょう。

[きやく]

.....

.....

.....

【正答】

.....

.....kyaku.....

.....

全国調査及び他学年における同様の問題の正答率

全国調査：53.2%

小4 **1**四：64.6%

小5 **1**三：62.8%

中学校2年数学【問題例② 3 (3)】

連立方程式の立式の際に、着目する必要がある数量を見いだすこと **正答率 89.6%**

【問題】 ある美術館の入館料は大人1人300円、中学生1人200円です。この美術館に大人と中学生を合わせて5人で入館したとき、料金の合計は1200円になりました。入館した大人と、中学生の人数をそれぞれ求めなさい。

入館した大人と中学生の人数を求めるために、大人の人数をx人、中学生の人数をy人として、連立方程式をつくります。

$$\left\{ \begin{array}{l} x + y = 5 \cdots \text{①} \\ \boxed{\text{②}} \end{array} \right.$$

①の式は、「入館した大人と中学生の人数の合計」という数量に着目し、それを両辺にx+y、5と表してつくっています。同じように、問題の中にある数量に着目し、それを両辺に表すと②の式をつくることができます。問題のどの部分に着目しますか。その数量を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 入館した大人の人数 イ 入館した中学生の人数 ウ 入館した大人の料金の合計
エ 入館した中学生の料金の合計 オ 入館した大人と中学生の料金の合計

【正答】 オ

●課題の見られた問題

小学校5年算数【問題例③ 1 (2)】

被除数と除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解すること **正答率 15.5%**

に当てはまる数を、下のアからウの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

$$2.4 \div 0.3 = (\quad)$$

↓ 10倍

↓

24

↓ 10倍

↓

3

↓ 倍

↓

8

ア 1

イ 10

ウ 100

【正答】 ア

中学校2年国語【問題例④ 4 四】

読み取った情報を条件に合うように的確に表現すること **正答率 33.6%**

河本さんは、「クの資料」から、はなっこりーのよいところを読み取れていません。「クの資料」から分かる、はなっこりーのよいところを答えなさい。

ク 9月頃からは、涼しい山口市阿東町や岩国市錦町、美祢市などで栽培され、冬場は温暖な山口市や宇部市、下関市などで栽培され、5月まで出荷されている。

【正答例】 夏の3か月以外の期間、県内各地で栽培できるところ。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

【質問紙調査結果から見られる特徴】

○ 学校の授業以外に1時間以上勉強している児童生徒の割合は、ほとんどの学年で前年度に比べて増加しており、家庭学習等の習慣が定着してきていることがうかがえる。今後、自分で計画を立てて、一層主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、児童生徒への働きかけを工夫するとともに、家庭との連携の一層の充実を図りたい。【質問①②③】

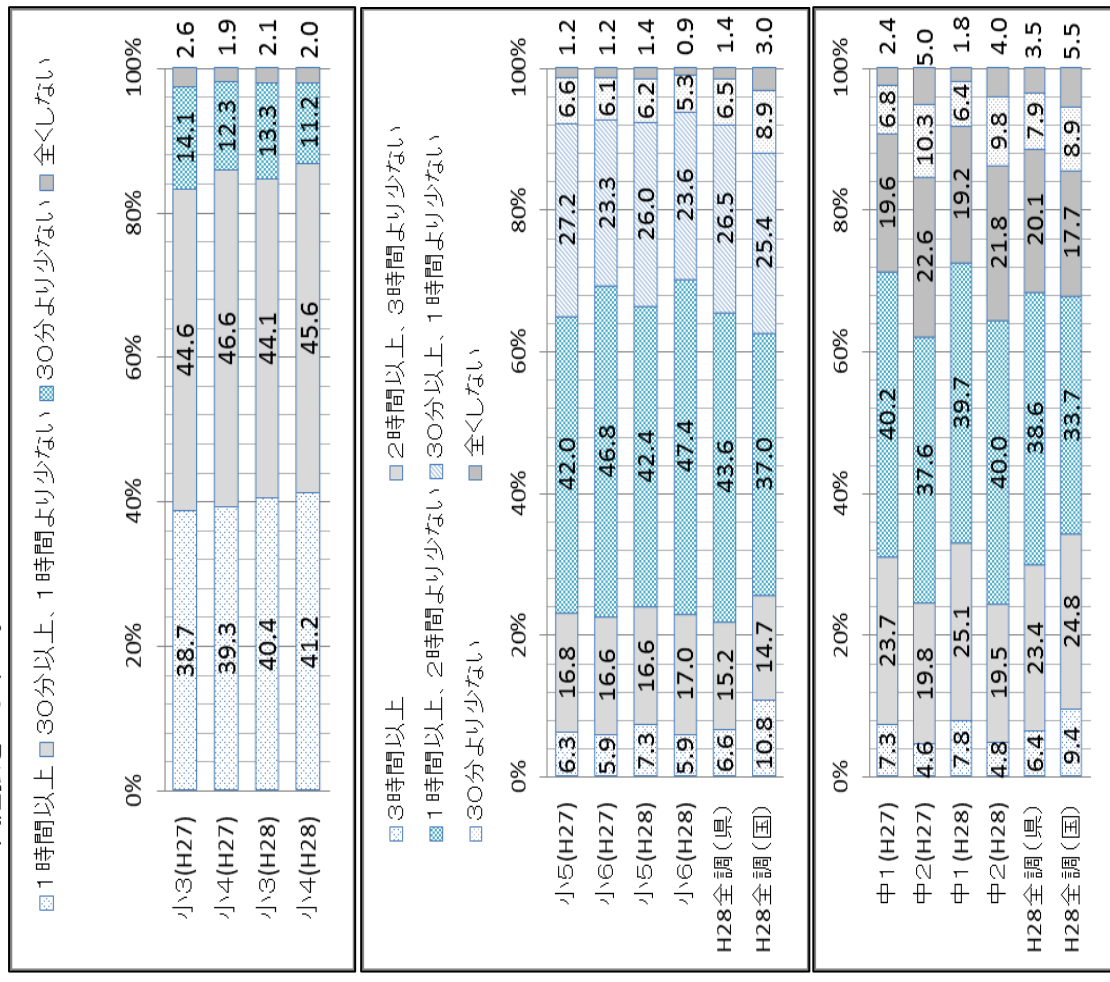
○ 授業の中で話し合う活動をよく行っていると思う児童の割合は、前年度に比べてやや増加しており、各学校の授業改善の成果がうかがえる。話し合い活動等を含め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善の一層の充実を図りたい。【質問⑥】

● 授業の目標の提示や授業の振り返りの実施に関する質問事項においては、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、前年度に比べてやや減少している。学習の見通しを立てたり振り返ったりする活動の確実な実施など、基本的な授業の在り方を再確認し、全校体制での授業改善の取組のさらなる充実を図りたい。【質問④⑤】

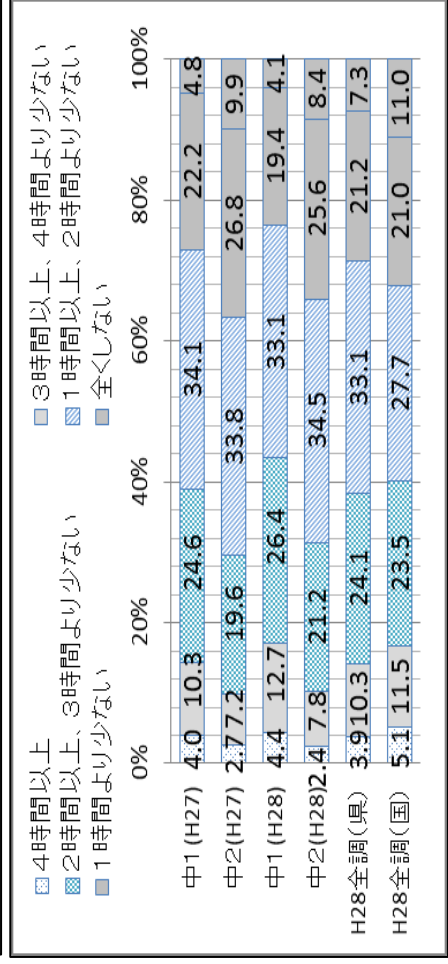
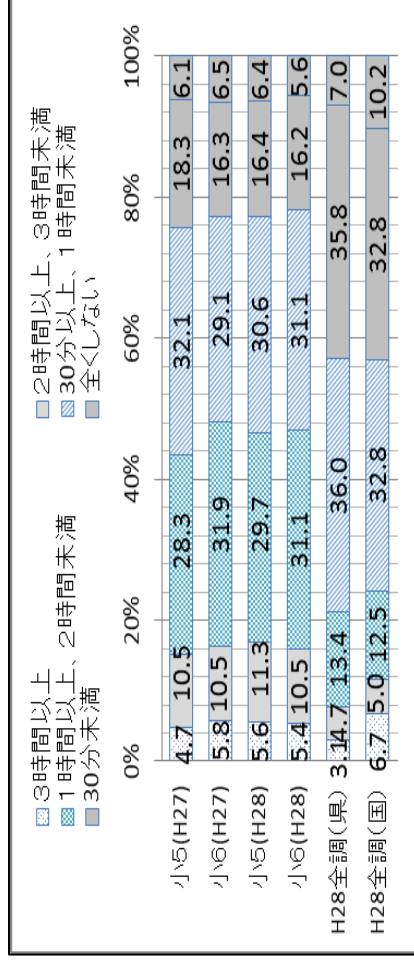
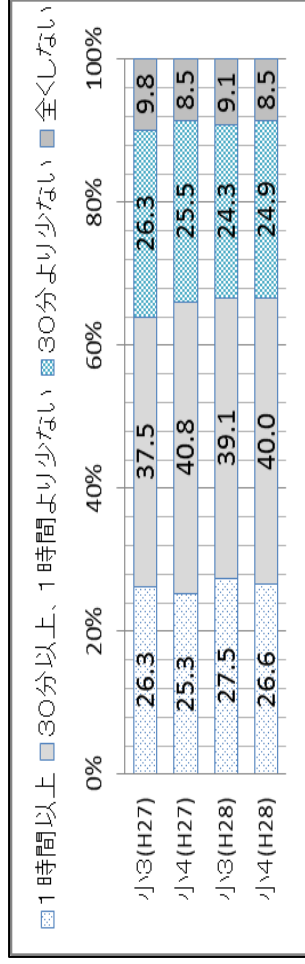
※ 本資料のグラフは、学年進行による推移や、平成27年度の調査結果と比較した状況が把握できるよう、平成27年度と平成28年度の結果をまとめて掲載しています。

※ 「全調」は、平成28年度全国学力・学習状況調査における山口県及び全国の結果を示しています。

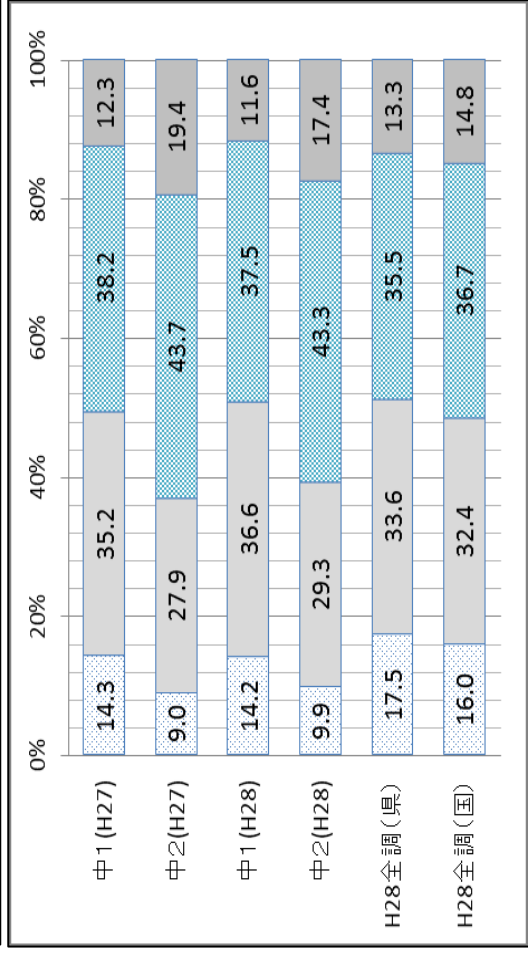
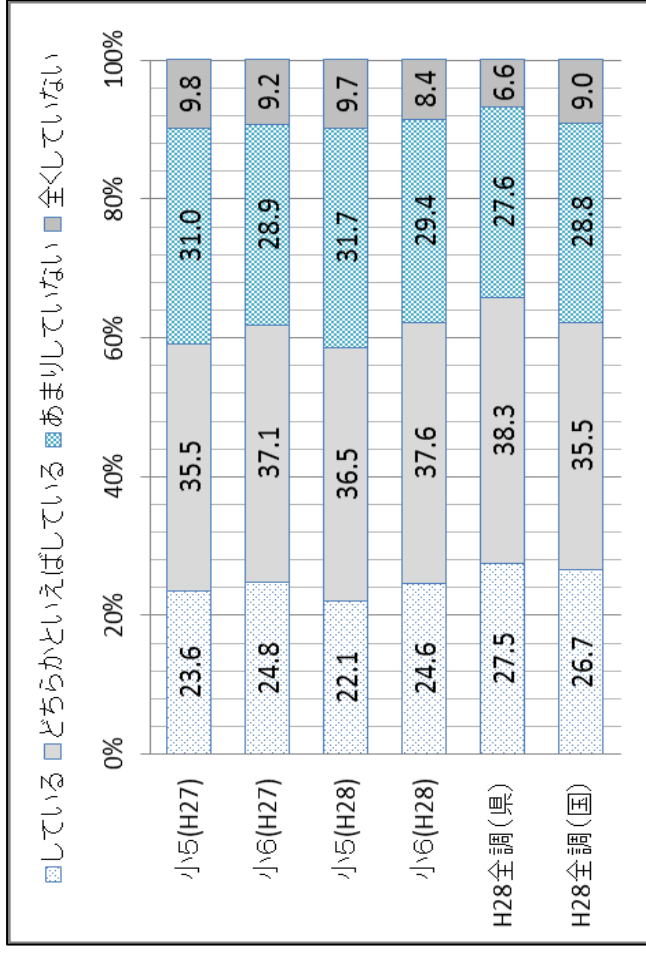
【質問①】学校の授業時間以外に、ふだん（平日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。



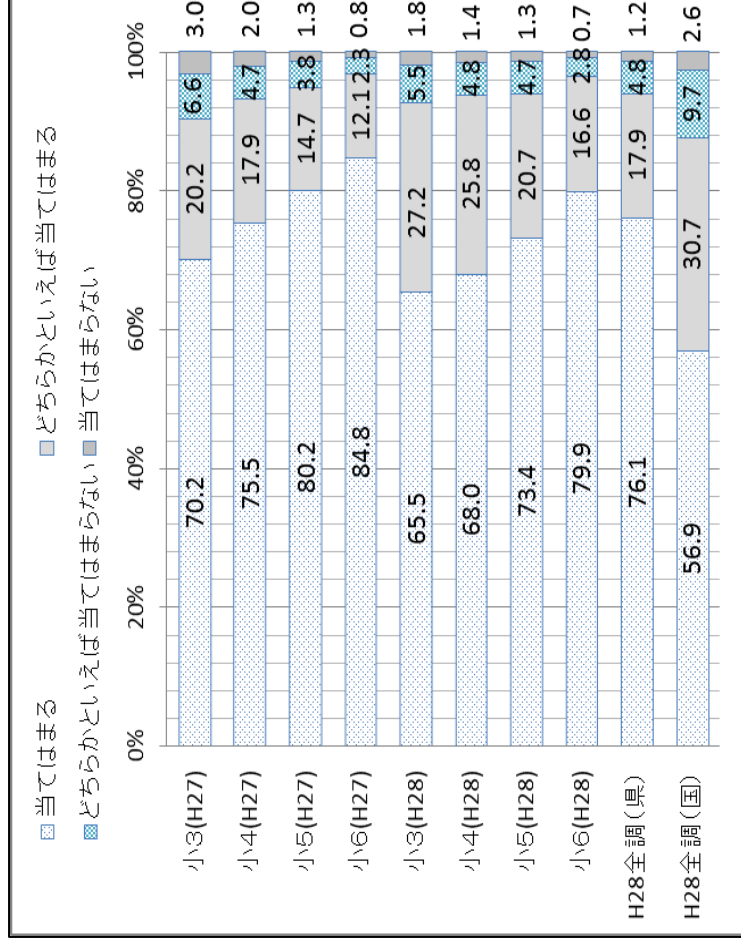
【質問②】 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。



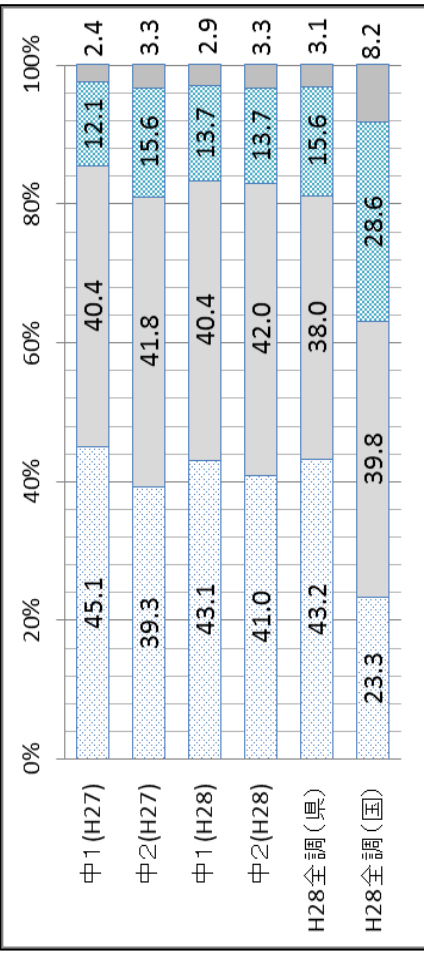
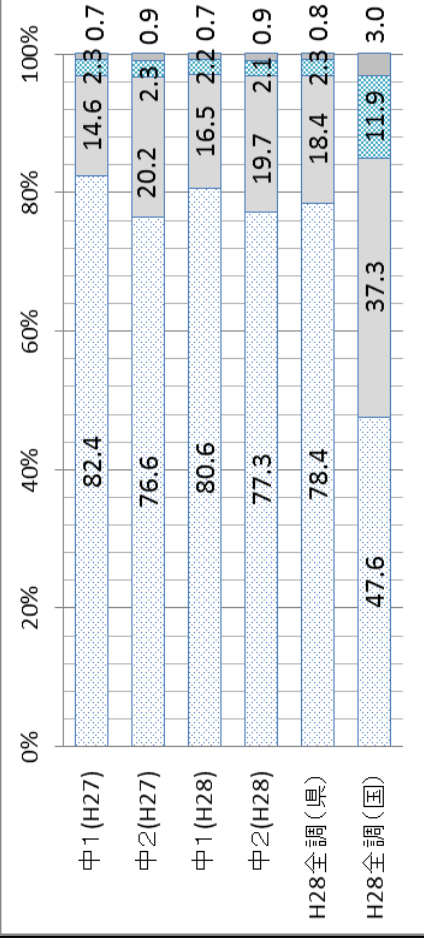
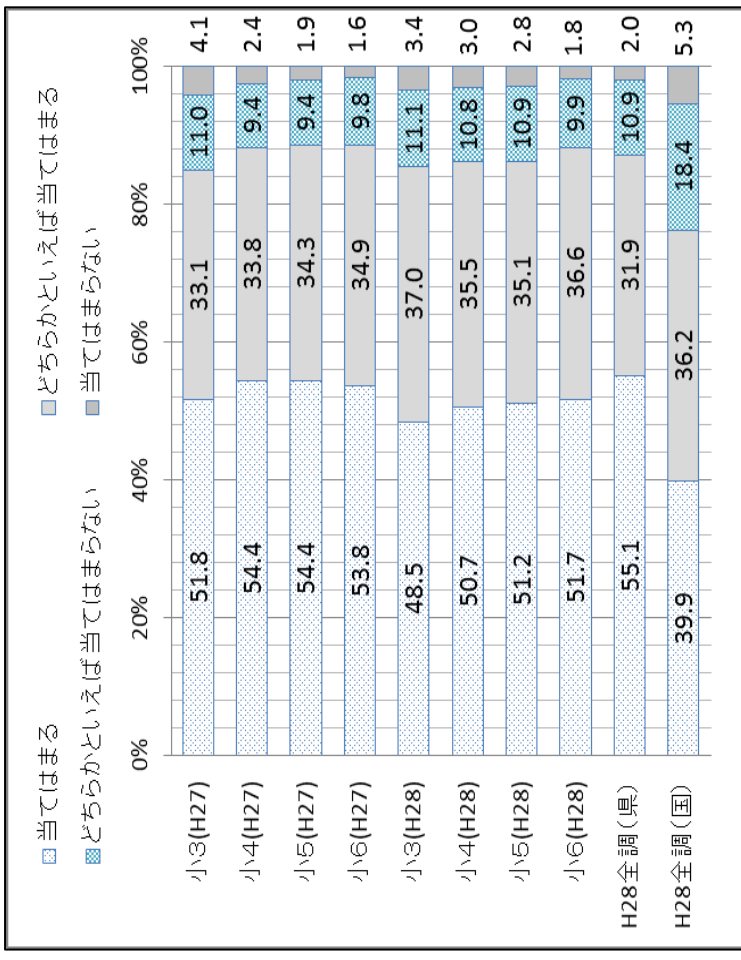
【質問③】 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



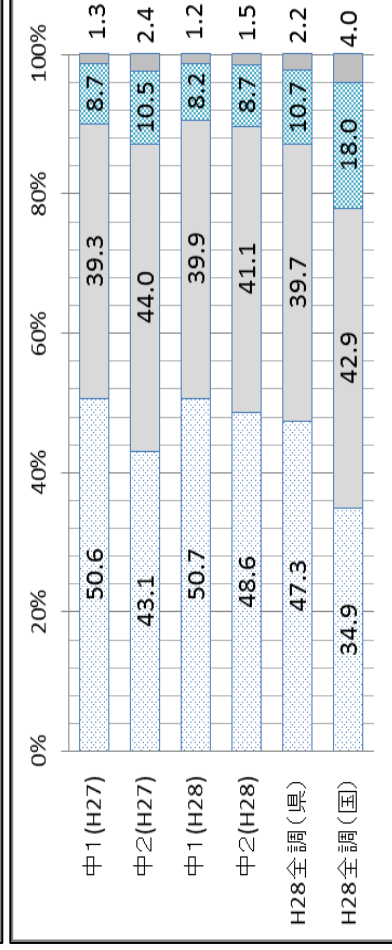
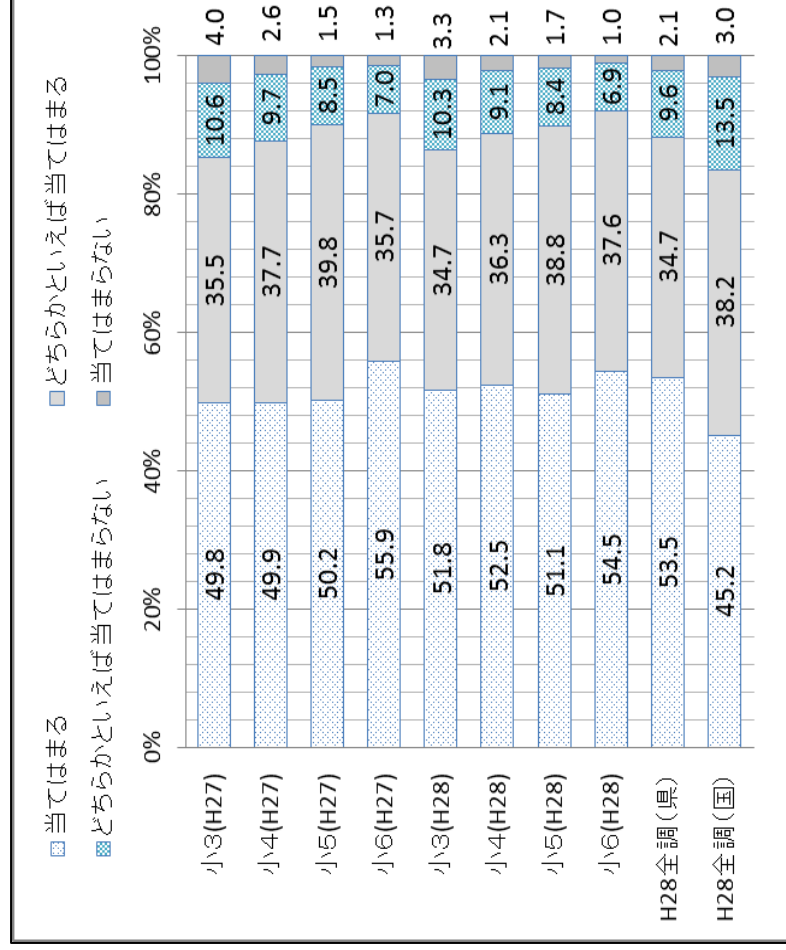
【質問④】授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。



【質問⑤】授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。



【質問⑥】 普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか。



【質問⑦】 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組みましたか。

